

海外生活 レポート 60



リヨン旧市街と筆者(左)、訪問中の母と共に。

にし かわ ゆり こ
西川 由里子さん

奈良県生駒市出身。フランス政府給費奨学生として、リヨン第二大学修士課程で言語学を学ぶ。現在は、在リヨン領事事務所で広報文化担当現地職員として勤務。

絹の街リヨンとその暮らし

リヨンに住んで11年、街の魅力を聞かれるとまず思い浮かぶのは「暮らしやすい街であり、そして美味しいものに囲まれた街」ということです。リヨンの魅力は数え切れないほどありますが、今回(前編)はその暮らしやすさについてお話しします。

アクセスの良さ

リyonはフランス南東部に位置し、パリからはTGV(高速鉄道)で約2時間、スイスやイタリアにもアクセスしやすいため、旅行好きにとっては理想的な場所です。

また、市内の交通機関が非常に充実しており、地下鉄やトラム、バスを使えばどこへでも簡単に移動できます。街中にレンタル自転車も多く設置されており、自転車道も整備されていることから、住民にとっては便利な移動手段となっています。



「染められた生糸」

19世紀、ヨーロッパ全体に広がったカイコの病気により、リyonでは絹の入手が困難になった。その危機を救ったのが、横浜港から輸出された日本の生糸。絹を通じたつながりが、リyonと横浜の友好関係を深め、1959年に姉妹都市として結ばれた。

を撮影した場所としても有名です。

リyonは美術館や博物館、オペラ劇場、コンサート会場などが充実しています。敷居が高いように感じるかもしれませんが、実際には子供向けイベントが定期的に開催され、学生証を提示すれば無料で入場できる施設も多くあります。私も学生時代、何度もお世話になりました。こうした施設が日常的に開かれていることで、リyonの人々は芸術文化に触れながら生活しています。

リyonでは年間を通じて、さまざまなイベントが開催されます。特に有名なのは、12月に行われる「光の祭典」です。街中が幻想的なイルミネーションで彩られ、世界中から観光客が訪れます。この祭りはもともとと宗教的な行事として始まりましたが、今ではリyonの象徴的なイベントとなっています。

フランス共和国 リyon - 前編 -



1998年にユネスコ世界文化遺産に登録された「リyon旧市街」



リyon出身のジョセフ・マリー・ジャカードが19世紀初頭に発明した自動織機「ジャカード織機」^(注)。明治初期、京都府は職人3名をリyonに派遣し、その後ジャカード織機技術が西陣織に導入された。

(注)パンチカードを使って糸の通し方を制御し、複雑な模様を機械で簡単に織れるようにしたものの。これにより作業が効率化し、均一な品質の生地を短時間で生産できるようになった。

INFORMATION



フランス共和国

人口 約6,837万人
面積 549,134km²
首都 パリ
言語 フランス語

自然との調和

リyonはフランス第二の都市として賑わっていますが、それでも自然が身近に感じられる点が大きな魅力のひとつです。リyonを流れるソーヌ川とローヌ川には美しい散歩道が広がり、ジョギングやサイクリングを楽しむ人々の姿がよく見かけられます。また、市内には数多くの公園が点在しており、週末は家族連れやピクニックを楽しむ人々で賑わいます。

さらに、リyonから少し足を伸ばせば、ボジョレーの広大なブドウ畑や、ヨーロッパで最も透明度の高いアナシー湖、ヨーロッパアルプスのモンブランを望むことができます。リyonに住むことで、日常的に豊かな自然に触れることができ、休日にはさまざまな風景を楽しむことができます。都会の便利さと自然の調和が絶妙に取れた環境こそが、リyonの大きな魅力です。

リyonの文化とイベント

リyonは「絹の街」として知られ、中世から絹産業で栄えてきました。今でも絹織物を扱うショップや工房があり、リyonの歴史と文化を感じることができます。また、リyonは映画の発祥地でもあり、リュミエール兄弟が世界初の映画



105haあるリyon最大の公園「テットドール公園」公園内に動物園や湖などがあり、市民の憩いの場となっている。

食文化による日々の幸せ

リyonの魅力を語るうえで欠かせないのが、その豊かな食文化です。美食の街として名高いリyonには、美味しいレストランがひしめいており、地元の人々も食事を大切にしています。市内の屋外市場「マルシェ」では、新鮮な野菜や地元の特産品、さまざまなチーズが並びます。美味しいものに囲まれた生活は、リyon市民に大きな喜びをもたらす。私自身も美味しい料理を楽しむたびに、リyonで暮らす幸せを実感しています。

冬号の後編では、リyonの食文化に焦点を当ててご紹介します。

川崎市国際交流センターは、多言語で生活全般の相談に応じる「多文化共生総合相談ワンストップセンター」をはじめ、7月で6年目を迎えます。

多文化共生社会の実現に向け、外国人の皆さんが地域で安心して生活できるように、日々サポートしている相談員の皆さんにインタビューしてみました。

質
問

- ①好きな有名人、趣味・好きなことを教えてください。
- ②相談員になろうと思ったのはどうしてですか？
- ③どのような相談がきますか？
- ④外国人のみなさんへのメッセージ

フィリピン語・英語担当
鈴木 ジョージさん(フィリピン出身)

- ①ギター。音楽。
- ②困っている人の力になりたい。
- ③いろいろな相談がきます。入管手続き、結婚・離婚、教育、その他。
- ④異国で生活するのは大変なことが多いと思いますが、センターだけでなく周りの人にも頼りながら、ゆっくりとご自身のペースで過ごしてくださいね。

英語担当
種石 浩史さん(日本・静岡出身)

- ①旅行。美味しい食べ物と美味しいお酒を楽しむこと。
- ②会社員の頃、海外駐在した際に現地のさまざまな人たちに支えられて生活してきたので、いつか日本で暮らす外国人住民の方のお手伝いをしたいと思っていました。
- ③日本語学習、社会保険、税金に関するものが多いように感じます。
- ④日本語がわかると入手できる情報量も格段に増えますので、ぜひ日本語を学習してください。

ネパール語担当
パネル・タクルさん(ネパール出身)

- ①写真撮影。旅行、ハイキング。
- ②日本で長く生活して得た経験や知識を、困っている誰かのために役立てたいという思いから相談員になりました。
- ③市営住宅の申し込み、日本語講座について、郵便物の翻訳や説明の依頼、保育園や教育に関する質問、税金についての相談など
- ④日本での生活は大変なことも多いと思いますが、皆さんの力になれる制度や機会はたくさんあります。困った時は、ぜひ気軽に相談してくださいね！

スペイン語・英語担当
屋宜 ミリアムさん(ペルー出身)

- ①ショパン。歩いて呼吸すること。クラシック音楽を聴きながら本を読むこと。
- ②相談者の考え方や感じ方を理解することで、それに寄り添った温かいサービスを提供できると考えたから。
- ③日本語講座や税金、予防接種、薬物依存をやめる方法など。
- ④日本文化の素晴らしさを楽しみながらその良さを吸収し、自分たちの文化と美しく融合させていきましょう。

中国語担当
蔣 香梅さん(中国出身)

- ①家庭菜園。家族と一緒に出かけること。
- ②来日したばかりの時、周りの日本人や外国人に大変お世話になりました。その恩返しと思って、少しでも役に立つように相談員の仕事を継続しています。
- ③相談はさまざまですが、教育関係や在留についての相談が多いです。
- ④異国で生活するのは大変かもしれませんが、必ず自分なりの生き方があると信じてください。

ポルトガル語担当
西尾 マリーナさん(ブラジル出身)

- ①Caetano Veloso(ブラジルのシンガーソングライター)。旅。自分の狭い視野を広げてくれるものや人、出来事。
- ②来日していろいろな壁(言葉、制度、風習、概念、etc.)にぶつかり、当時は充実した相談窓口もなく、大変でした。30年の日々が過ぎて日本社会の在り方が少し理解できたところで、母国語も活かせるので外国人相談業務に携わってみたいと思いました。
- ③主に公的機関への手続きや医療、教育や生活に関する相談が多いです。
- ④異国で生活すると、なかなか物事が順調に進みません。現在、全国に数多くの外国人相談窓口が存在しているので、一人で悩まず積極的に利用して日本での暮らしをより豊かにしてほしいです。

気軽に相談を！

窓口(in Person)

川崎市国際交流センターで、相談ができます。(9:00~17:00)

相談したい言語の相談員がいない日でも通訳サービスを使って話すことができます。

電話(by Phone)

044-455-8811

メール(by E-mail)

soudan39@kian.or.jp

オンライン(by Zoom)

川崎市国際交流協会のホームページから申し込みます。



※日曜日、休館日、12月29日~1月3日はお休みです。

(取材・文・写真撮影：川崎市国際交流協会 加藤 恵美)